

2022年度 定時社員総会議事録

開催日時：2022年5月15日(日) 11:00～12:10

開催場所：神戸三宮センタープラザ西館6階4号室 / リモート(Zoom)

出席者：

社員総数 20名

出席した社員数 (委任状及び書面による議決権行使者3名を含む) 13名

出席理事 6名

出席監事 1名

① 議題

＜審議事項＞

第1号議案 人事について

第2号議案 定款修正(案)について

第3号議案 2021年度計算書類および事業報告について

第4号議案 2022年度予算計画書(案)ならびに事業計画書(案)について

＜報告事項＞

第1号報告 個人情報ならびに会員名簿の取り扱いについて

② 配布資料

①社員総会アジェンダ

②定款修正(案)新旧対照表

③2021年度 事業報告書 (P8からP14までは2021年度 決算報告書)

④2022年度 事業計画書(案)

⑤学生支援 アシヤカレッジ同窓会賞(案)

⑥2022年度 予算計画書(案)

⑦個人情報ならびに会員名簿の取り扱いについて 新旧対照表

⑧SNS公式Instagramを開設いたしました 改訂版

⑨各支部宛 同窓会会員名簿の取り扱いについて

⑩支部総会開催案内状(案)

⑪交通費申請書 ※会場にお越しの方のみ

議事

事務局が本社員総会で使用する Web 会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認したあと、スケジュールと資料の確認を行った。

議長は定款第20条の定めにより白石会長があたることに全員異議なく承認された。社員の過半数の出席により成立の条件を満たし、定足数に達している旨を報告。続いて、本社員総会の議事録署名人は定款第23条の定めにより議長ならびに代表理事3名とすることが事務局から報告された後、議長より議案内容の説明ならびに進行の注意点が述べられ議事に入った。

＜審議事項＞

第1号議案 人事について

白石会長より、監事 竹田由美子氏の辞任届を受理事ることの説明が行われ、後任監事の人選については慎重に行う旨の説明が併せて行われた。

議長が第1号議案について議場に諮った結果、全員異議なく承認された。

第2号議案 定款修正(案)について

配布資料「定款修正(案)新旧対照表」に基づき、定款の一部文言の追加について白石会長より説明が行われ、これに伴う過去の社員総会議決数に影響がないことの報告もされた。

議長が第2号議案について議場に諮った結果、全員異議なく承認された。

白石会長が、第1号議案ならびに第2号議案の法務局への変更届提出の指示が事務局にされた。

第3号議案 2021年度計算書類および事業報告について

白石会長より、事業年度の変更により、昨年度2021年度は事業期間が7か月間であったことの説明がされた。

疋田副会長より、配布資料「2021年度決算報告書」に基づき会計報告が行われた。

会計監査については2022年5月12日、白石会長立ち合いのもと、帳簿と収支報告書の確認、帳簿と領収書、通帳との突合せの確認を行った。決算報告書については、帳簿ならびに領収書など関係伝票書類に基づき、監査の結果、会計基準に則り適正に処理されていることの報告が林監事より行われた。

社員総会議決後、同窓会ホームページにおいて、暦年収支報告書ならびに暦年正味財産目録を掲載することの報告もされた。

議長が以上内容について、質問がないか議場に諮ったが全員異議なく確認された。

続いて、配布資料「2021年度事業報告」に基づき、2021年度の事業報告が盛田副会長より行われた。

魅力的な同窓会活動の開発については、広報、行事、情報化推進、支部活動の活性化を4本の柱としていた。

まず、広報は同窓会だよりに関する好意的な意見が増えていること、行事については、支部総会も含め、昨年度もコロナの影響により、すべての行事が実施出来なかったが、秋の総会の開催を待たれていた方が多く、問い合わせが例年より多かったことを大変嬉しく思う。情報化推進については、行事が無かったことで、情報提供が思うようにできなかったが、インスタグラムについては、今後、卒業生からの投稿も可能とし、活性に向けて更なる尽力を続けたい。ホームページについては、公開する内容が増えているため、見やすい構成に随時変更をしている。

年会費・寄付金の徴収については、2020年度の学園からの寄付のお願いが影響し、納付者が58名まで減少したが、昨年度2021年度の納付者は133名まで回復し、額は3,172,000円と過去最高額となっている。これらの寄付金については、可能な範囲で大学の学生支援に活用したい。

財務の安定については、年会費・寄付金が増額したことも大きな後押しとなり、法人化後、初めての黒字会計に安堵している。収入と支出の差が年々縮まり、昨年度は収入と支出が初めて逆転した。年会費・寄付金のお陰でもあるが、精一杯の運営費の工夫と経費削減が功を奏した結果となったことが報告された。

しかし、同窓会が法人化された2018年度の正味財産が49,123,357円、昨年度2021年度が44,521,992円。後世に同窓会を繋いでいくため、大学の学生に支援をしていくためにも、年会費・寄付金への更なる理解が必須に思うと共に、まずは、これ以上、財産が減少しないよう、経費削減への工夫を継続し、5,000万円台への回復に

向けて尽力する。

学園ならびに大学との連携については、学園の過去の巨額な支出に関する回答についての要望書を3月10日に学園に再提出した。山田理事長からは、同窓会の要望に対する回答は行う、というお考えをお示し頂いたので回答が届き次第改めて報告は行う。大学との連携は、スポーツドリンクの寄贈は行ったが、コロナの影響で思うような支援が出来なかったことは残念に思っている。コロナの影響で大学の学位記授与式に白石会長の参列が出来なかったため、卒業する後輩たちに同窓会から祝電を送ったことなどの報告がされた。

議長が以上内容について、質問がないか議場に諮ったが全員異議なく確認された。

議長が第3号議案について議場に諮った結果、全員異議なく承認された。

昨年度2021年度は黒字会計で終わることが出来た。年会費・寄付金ならびに財務の安定にしても、一歩ずつ、着実に整備されてきているように感じている。この少ない運営費の中で、活動の道筋が出来てきたことに、さらに気持ちを引き締め直し、邁進したいと白石会長から発言があり、役員ならびに社員の皆様へ感謝と労いの言葉がかけられた。

第4号議案 2022年度予算計画書(案)ならびに事業計画書(案)について

昨年度2021年度に掲げた事業計画が同窓会の基盤と考え、活動の定着と更なる飛躍を目指すためにも、今年度2022年度の事業計画は昨年度の事業計画を継続したいと思っていることが白石会長より述べられた。

配布資料「2022年度 事業計画書(案)」に基づき、盛田副会長より説明が行われた。

当法人の事業目的に変更はなく、今年度の事業計画は①魅力的な同窓会活動の促進、②年会費・寄付金の徴収、③財務の安定、④大学との連携、以上とする。

魅力的な同窓会活動の促進は、会員が魅力に思える活動をしてこそ、同窓会への理解が得られるものであり、広報・行事・情報化推進・支部活動の活性化この4つに分けて細やかな活動を行う。

まず、広報については、同窓会だよりの発行と新入会員となった卒業生に歓迎のお手紙を送付することは例年通りとする。今年9月に発行する同窓会だよりの準備を進めており、支部からのメッセージの原稿は期日までの提出がお願いされた。年に一度発行する同窓会だよりは会員の方が心待ちにしてくれる魅力ある会報誌となることを目指したい。

行事に関しては、秋の同窓祭と小規模行事、卒業を迎える学生に贈る懇話、この3行事を計画している。秋の同窓祭は、芦屋学園祭2日目となる、10月23日(日)で予定しているが感染症の影響で大学が学園祭を中止とした場合、同窓祭も同じく中止とする。内容については、今までと違った企画をしており、当日は社員総出で会を盛り上げたい。

感染症対策等もあり、人手を必要とするため社員にお手伝いの協力がされた。若い世代の取り込みが課題となっていることもあり、小規模行事については卒業生のお子さん、現役学生が参加できるようなアットホームな行事を計画する。卒業前の学生に贈る懇話については、卒業する後輩たちに先輩からエールを送ってもらう懇話を予定している。懇話をして頂く方は、現役学生と距離が近い方で卒業後3年以内の卒業生で検討する。

情報化推進については、ホームページとインスタグラムの充実に入力、ホームページについては、随時、見やすい構成に変更し情報発信は適時行う。SNSには大きな力があり、インスタグラムにより、様々な情報発信を卒業生が目にすることで、活動の活性につながるものと期待している。魅力あるインスタグラムにするため、まずは卒業生間の投稿も可能とする。さまざまな情報を発信し続けることが重要となるため、支部から発信してほしいメッセージなどがあれば、遠慮なく申し出てほしい。

フォロワー数を増やすため、行事に参加して下さった方で、インスタグラムをフォローして下さった方には、特典を差し上げることや、行事をインスタライブで生配信させること等も検討している。

支部活動の活性化については、コロナの状況を見て今年こそは各支部において総会が開催できることを願っている。

年会費・寄付金の徴収については、卒業生にお願いをするばかりではなく、まずは我々が魅力ある同窓会活動を行うことで、年会費への理解者を増やすことに繋げたい。

財務の安定については、まだまだ十分な資金がある訳ではない。財産をこれ以上減少させないよう、経費削減と工夫は継続して行い、収入に見合った支出を行うことで、出来る限り赤字額を抑えたい。

最後の、大学との連携については、同窓会がどこまで関与すべきかを理事会で考えたが、大学ならびに後輩にあたる現役学生への支援は積極的に行っていくのが同窓会のあるべき姿だという意見でまとまったため、今年度は学生支援に力を入れたい。スポーツドリンクの寄贈は例年通り行い、今年はコロナ禍でも明るく頑張っている学生にサプライズ企画としてミスタードーナツの提供を行いたい。次に、4年間の学生生活を優秀に修めた学生に対して、同窓会から「アシヤカレッジ同窓会賞」という賞を授与したいと考える。

これに関する規定は、配布資料「学生支援 アシヤカレッジ同窓会賞(案)」を参照。

授与者の規定は、平等性に期すことを考え、教育学科、児童教育学科、経営教育学科より1名ずつ計3名とすることなどが説明された。

議長が以上内容について、質問がないか議場に諮ったが全員異議なく確認された。

以上のことに異議が無かったため、2022年度予算(案)に議案が進んだ。

配布資料「2022年度 予算計画書(案)」に基づき、正田副会長より説明が行われた。

議長が以上内容について、質問がないか議場に諮ったが全員異議なく確認された。

議長が第4号議案について議場に諮った結果、全員異議なく承認された。

今年度、通常の活動に戻るとなると、赤字予想となるのは致し方ないと思っているが、充実した活動を行う為にも年会費・寄付金への理解者を更に増やすことに尽力したいと思う。また、決して安定した財務状況とは言えないため、引き続き、経費削減への工夫を行うことで黒字に向けて尽力する。

今年は現役学生への支援を拡大させる。財務状況が十分ではない中で、気持ちだけでも、大学への支援ができればと思い活動をしている。幸い、今年度、こうして、現役学生である後輩たちへの支援ができるのも、年会費ならびに寄付金が集まってこそ、できることであり、ご理解を頂きましたみなさまに感謝申したい。今年の大学新生が定員に達しなかったと聞いており、同窓会としても何らかの支援をしたいと思っている。

それらを含め、窪田学長とは今後の連携について意見交換を行い、大学が同窓会活動に求めることに対しては、積極的に耳を傾けるつもりでいる。現役学生が自由に参加できるような行事体制も作っていきたいと思っており、就職の相談や、先輩に頼りたい学生がいれば、それにも手を差し伸べてあげられるような関係性の構築も考えていきたい。

会員数は2万人程度の決して規模が大きな同窓会ではないが、だからこそ、小規模なりの温かさをもって、協力しあい、互いへの配慮を忘れることなく、ポジティブに前に進みたいと思っていると白石会長から2022年度の指針と役員ならびに社員に協力依頼がされた。

《報告事項》

第1号報告 個人情報ならびに会員名簿の取り扱いについて

配布資料「個人情報ならびに会員名簿の取り扱いについて 新旧対照表」に基づき、赤字箇所の修正変更が森下副会長より報告された。

上記変更に伴い、配布資料「SNS 公式Instagramを開設いたしました 改訂版」も修正する。この2点については、ホームページ掲載文の修正も行う。

次に、各支部の方で対応をお願いしたいことが、配布資料「個人情報の取り扱いについて」に書かれており、支部社員間で情報共有ならびに厳重なる対処のお願いがされた。

議長が以上内容について、質問がないか議場に諮ったが全員異議なく確認された。

白石会長より、個人情報の管理は同窓会の最も重視すべき点であり、過去の名簿等の取り扱いには十分ご注意くださいと依頼された。

行事に絡むインフォメーションについて

まず、何らかの都合で会員となっていない卒業生が同窓会の行事に参加したいと申し出られた際の取扱いは、入会金 20,000 円を納め、正会員となることが前提であるとの報告が簡理事より行われた。

次に、支部総会を開催する際の案内状について原案が確定したので、配布資料「支部総会開催案内状(案)」の説明が行われた。

今年の秋の同窓祭で抽選会とマルシェを予定しており、抽選会協賛品と出店者の募集についての説明が行われた。これらに協力していただける方は、同窓会だよりにその内容を掲載するため、5月27日(金)までに事務局までメールで申し出てほしいとインフォメーションがされた。

議長は以上をもって社員総会の議事が全て終了した旨を述べ、12時10分に終了した。

以上の議決を明確にするため本議事録を作成し、議長ならびに議事録署名人がこれに記名・捺印する。

2022年5月15日

一般社団法人 芦屋大学・短期大学同窓会

議長 (議事録作成者) 白石方一

以上